

電気化学会会長メッセージ

(大阪大学大学院工学研究科 教授) 桑畑 進



(1) 会長としてのメッセージ

電気化学会は、化学エネルギー、光エネルギー、電気エネルギーの間のエネルギー変換に関する学術と産業技術の開発を主たる研究ターゲットとし、8つの専門委員会と12の研究技術懇談会を有しています。その学問体系の確立や、材料探索と技術革新を推進するためには、日本化学連合に所属している他の学会との関係は重要です。電気化学会の会員の中で他の学会の会員を兼ねている研究者は数多く、未確認ですが、おそらく正会員の全学会と関係していると存じます。

(2) 電気化学会の使命と現状の課題

エネルギー問題が深刻化する中、①化学エネルギーと電気エネルギー間の変換デバイスの重要性は高まるばかりであり、それを真向から取り組んで安心して使えるエネルギーデバイスを開発すること、②「動く」、「感じる」、「エネルギー摂取」を含むあらゆる生命活動が化学反応と電子移動反応で行われていることがわかりつつある中、生命そのものを化学の視点で捉え、人類のあらゆる活動に貢献する化学技術を創り上げること、そして、③電子に関わる全ての化学反応を対象とし、それらの学理の確立と技術の向上が本学会の使命であります。それらの目的に向けて、上記の専門委員会と研究技術懇談会が一致団結し、会員同士の信頼と協力関係をより強くすることが、当面の本学会の課題と心得ます。

(3) 蝸壺化、閉塞感を打破し、最新研究・教育の場を作ること

上記のように、本学会は化学を主軸に物理、生物、エネルギー、材料を扱っているゆえ、蝸壺化する、閉塞感を持つ、ということはありません。むしろ、閉塞感を感じ始めている学問の中に電気化学的手法の導入を考える傾向が見受けられ、蝸壺化、閉塞感を打破させる研究分野であると自負しております。その技術を電気化学初心者や他分野の研究者に、いかにわかりやすく教育&伝授するかが一つの課題ですが、コロナ禍でネットワーク講演やオンライン授業が普及し始めている中、ストリーミング形式の Webinar で、いつでも見る事のできる電気化学基礎技術ライブラリーを作成することが、解決法のひとつではないかと検討を開始しております。

(4) 政策提言・要望

大学の学部等で、科学分野の分類として「理学」と「工学」との分け方がありますが、化学分野は工学部の中の化学であっても化学工学のみではなく、基礎から応用まで色々な化学研究が行われています。これは、科研の分類でも「総合理工」や「工学」に並んで「化学」という分類があることでも明らか。医歯薬も含め、あらゆる科学分野に密接している「化学分野」とそれらの分野との境界領域の多種多様性をしっかりと主張し、サイエンスの接着剤のような化学分野の存在意義を全面的にアピールすることを望んでおります。

(5) 化学連合へ期待すること

日本化学連合には、2007年の設立時から正会員として所属しておりますが、これまでに何らかの恩恵があったかという議論に、ポジティブな意見が出てきたことがありません。(3)の問いである「学協会の蝸壺化、閉塞感の打破」が連合の役割ならば、電気化学会はその問題を抱えていないので、直接的な恩恵を感じる機会が無いのかも知れません。今回のコロナ禍において、全ての学会で年会等を対面からオンラインに切り替えるなどの学会共通の悩みがある今こそ、その情報交換や技術提供等をする役割があったのでは無いのかな？と思っておりました。しかし、その代わりに来たのが会長メッセージの寄稿で、非常に残念な気持ちになったのは、電気化学会だけでしょうか？もう一度、日本化学連合の存在意義を再定義していただきたいと存じます。